

2023年10月31日

日本ハム株式会社

## 2024年3月期第2四半期決算 Web 会議 議事録 主な Q&A

日時：2023年10月31日 火曜日 18:00～19:00

### Q1. 今期の事業利益の見通しについて

A1. 通期事業利益を440億円に上方修正した。加工事業は妥当な計画だと考える。食肉事業は下期の国産鶏肉相場が想定を下回る見通しだが、フード販売はアップサイドの可能性もある。海外事業は豪州の牛肉事業の回復を見込む。

### Q2. 来期の事業利益の見通しについて

A2. 加工事業は円安により原材料高の継続を見込む。価格改定も視野に入れて利益の確保を進める。食肉事業はフード販売での更なる利益創出の体制づくり、国産豚肉では収益構造を見直す。海外事業は豪州の販売回復が来期に本格的に進む。また、米国の加工品の販売拡大も見込んでいる。

### Q3. 加工事業本部の新設したマーケティング統括部について

A3. 今期に新設したマーケティング統括部がハブとなり営業と製造の方向性を合わせ、加工事業全体の利益の最適化に向けて役割を發揮している。利益を最大化する商品に注力し、商品開発も強化する。

### Q4. 加工事業本部の収益について

A4. 昨年の非常に厳しい状況から底を打ったと認識している。主力ブランド商品の販売も回復傾向になってきている。シャウエッセンは販促に伴い売上が回復している。中華名菜の単価は改善したが売上回復に課題があり、今後リニューアルを実施する。

### Q5. 食肉事業本部の下期見通しについて

A5. 国産鶏肉事業の上期は2Qから相場が下落し、生産で利益確保に苦戦した。下期は昨年を下回る相場を見込む。輸入食肉事業では、牛肉は高騰している米国産から豪州産にシフトして利益を確保、鶏肉は堅調な需要を見込む。

### Q6. 輸入食肉事業の在庫の持ち方について

A6. 今期は在庫回転を重視した管理に変更し、在庫管理も含めて利益を確実に出せる体制にしている。

### Q7. 豪州事業の来期にかけての見通しについて

A7. 豪州の牛肉事業はワーカー確保の問題があるが、事業環境は好転している。米国産の減産は2-3年続くと想定しており、豪州には好環境が続くと見込む。

以上